様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １０ 日現在

機関番号：１６４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2021
課題番号：１７Ｋ０２０２１

研究課題名（和文）「杣（そま）」と森林鉄道を起点に復元する高知県東部の「暮らし」

研究課題名（英文）"Living" in the eastern part of Kochi Prefecture, which is restored from "Soma" and the forest railway

研究代表者
小幡　尚（OBATA, Hisashi）

高知大学・教育研究部人文社会科学系人文社会科学部門・教授

研究者番号：３０３３５９１３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、高知県東部の中芸地域一帯に敷設された魚梁瀬森林鉄道（1915～1963年）を取り上げ、木材搬出のための「林業インフラ」として敷設された同鉄道が、住民の「生活インフラ」として地域の暮らしのなかに組み込まれていった過程を、同鉄道と関わった経験をもつ住民や営林署関係者に実施したライフヒストリー・インタビューの知見、特に地域住民による同鉄道の生活利用の実践の語りに注目しながら考察した。
　また、同地域に残る史料を活用し、現在の「暮らし」の前提となる地域の歴史の一端を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　最大の成果は、魚梁瀬森林鉄道関係者をはじめとする多くの方々に対するインタビュー調査を実施し、それをデジタルデータ化したことである。同時に、対象地区の林業や産業、歴史に関する諸文献の調査・収集を行った。これらは、今後、中芸地区を対象とするさまざまな分野の研究の基礎資料となりえる。
　調査結果は一般にも分かりやすい形でに取りまとめ、ウェブサイトに公開している。さらに研究成果の一部は、地元地域団体「中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会」と連携し、公式HPで照会するほか、観光ガイドの資料等に活用されている。

研究成果の概要（英文）：　In this study, the Yanase Forest Railway (1915-1963), which was laid in Chugei area in the eastern part of Kochi Prefecture, was taken up, and the railway, which was laid as a "forestry infrastructure" for timber export, was used as a "Living infrastructure" for residents. Findings from life history interviews conducted with residents who have experience with the railway and people involved in the forestry office about the process of being incorporated into local life as "infrastructure," especially the use of the railway by local residents. We considered while paying attention to the narrative of practice.
　In addition, by utilizing the historical materials remaining in the area, a part of the history of the area, which is the premise of the current "living", was clarified.

研究分野：日本近代史

キーワード：杣　森林鉄道　「暮らし」　高知県東部　聞き取り調査　林業　行政文書　地域と戦争

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

魚梁瀬森林鉄道は、1910 年高知県東部の安田川・奈半利川源流域の国有林の木材を搬出するために設置され 1963 年まで存在した。当該地区の人々は 1980 年代を過ぎる頃より林鉄の機関車、軌道、隧道の保存・活用を目指す運動（「中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会」結成）を起こし、「旧魚梁瀬森林鉄道施設」として日本の森林鉄道初の重要文化財に指定される（2009 年）などの成果を上げた。しかし、地域住民の高齢化が進む中、「保存会」構成員も高齢化し、聴取調査を継続して実施していくべき地元の若･壮年層がほとんどいない状況となり、2015 年 5 月に「保存会」の中心メンバーが高知大学の歴史・地理・文化人類学の教員に聴取調査の支援を正式に要請した（「保存会」総会で決定）。同年 9 月から民・学共同の調査が開始された。本研究は、当大学の資金援助が止まったことを契機に立ち上げ、採択された。

２．研究の目的

本研究では、当該地区の軌道、遺構の保存に努めてきた民間団体（既に高齢化している）の要望を受けて、鉄道とそれが支えた「暮らしの復元」を試みた。復元は、嘗て四国森林管理局等が発行した雑誌『林友』等の一次文献に基づくだけでなく、営林署や国有林に隣接する民有林に関わった人々への聴取調査を行うことによって、「杣（そま）」等が語り継いだ技術用語、それを媒介にして伝えられた技術・道具、さらに彼らの消費・娯楽等の生の生活にまで及んだ。森林鉄道敷設の敷設前から廃止、そして周辺集落の消滅までをカバーし、最終的には、公にする研究成果を当該地区再生へのシーズに転換することを目指した。

研究に際しては、中心分野に林業を据え、かつ「杣（そま）」に焦点を当てて、林鉄が設置されるまでの時期（～1910 年）、林鉄が設置されていた時期（～1962 年）、さらに林鉄の廃線以降、以下を指標として聴取調査を進めた。

また、「暮らし」の背景にある歴史的諸条件を明らかにするために、地域に伝わる各種の史料や、県内外にある史資料についても調査と分析を行った。

３．研究の方法

本研究の最大の意義は、これまで鉄道史・林業史のテーマとしてしか扱われてこなかった森林鉄道を「暮らしの復元（生活史）」の題材と見なし、その「復元」を第一次文献史料のみならず、当時の関係者あるいはその遺族に対する聴取調査を実施することによって、「オーラルヒストリー」の部分を含む立体感のある「暮らしの復元（生活史）」を実現したことである。

したがって、高知県の歴史を研究する者だけでなく、林業史、文化人類学などを専門とする研究者が主に担い、複数分野による「暮らしの復元（生活史）」の共同研究としても調査を進めた。また、こうした学術的作業が地域住民の要請に端を発していることも新たな大学の学術研究のスタイルであったといえる。

地方公共団体や森林管理局等官公署も本研究と連携することを目指し、一定の成果を挙げた。今後、学術的成果が地域に知的な刺激を与え、それがまた研究そのものに新たな視点を生むことが期待される。

本研究においては多くの史資料（文献の他、関係者の証言、写真・動画を含む）を収集し、整理した。収集に当たっては、地域史を研究する際に利用すべき史資料を網羅することを目指した。それらは、（ウェブ上のものを中心に）アーカイブスとして構成することを想定しており、一定の実現を見た。これは、近現代史の史資料の保存･活用がほとんど進んでいない高知県において、画期的な試みとなった。本研究のチャレンジとその成果が、本県における近代史資料の保存・活用のモデルケースとなることが望まれる。

４．研究成果

①インタビュー調査の実施（岩佐・赤池）

2017 年度から 2021 年度において、高知県中芸地域（奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村）をフィールドに地元役場及び地域団体の協力を得て、延べ 80 名（男性 30 名、女性 50 名、平均年齢 80.9 歳）に対して対面インタビューを行った。調査結果はデジタルデータ（音声・映像）で記録し、文字起こしも完了している。

調査によって、森林鉄道の敷設と稼働は、土木作業員、トロ乗り、連絡所員、電話交換手、保線手といった多様な仕事を地域社会に創出しており、そのなかには、当時の女性にとって重要な

社会的意義をもった仕事があることがわかってきた。また、病人の緊急搬送、民有林材の搬出といった私的な「便乗」などの利用実態を通じて、「生活インフラ」としての住民と森林鉄道との関わりが女性の就労機会の獲得につながっていたことが明らかとなった。
　調査結果を一般にも分かりやすい形で『Lifehistory-kochi　振り返ればそこにある高知の暮らし（中芸地域 編）』に取り纏め、ウェブサイトに公開した。

②旧高知営林局等の文書調査の実施（赤池）
　国立公文書館つくば分館、四国森林管理局等に所蔵された森林鉄道及び国有林関係資料の収集を進め、延べ 100 点を超える資料の複写・リスト化を行った。特に旧高知営林局の機関誌である『高知林友』は、明治期以降の国有林と高知県民の繋がりを知る貴重な資料である。

③中山村旧役場文書の整理・分析（小幡）
　中山村は、1943 年に安田町に編入されるまで存した村で、現在の安田町（高知県東部「中芸 5 か町村」の一つ）の北部に位置していた。新たに「発見」された旧役場に伝わる行政文書（森林組合等の文書も含む）の整理を行ない、その全体像を把握した。
　同文書に含まれていた『明治廿七年八月以降　中山興武会雑書類　第五号』を分析することによって、同村から日露戦争へと出征した者たちを動向と、地域の対応の動態の全体像を明らかにすることができた。今後、さらに同文書の分析と検討を進め、明治から戦後にいたるまでの高知県東部の「暮らし」を考える基礎的な素材として活用する予定である。

④今後の研究への発展
〔赤池・岩佐〕
　本課題の研究分担者赤池慎吾・岩佐光広は、それぞれ本課題の研究期間内に新たな科研費を取得している。すなわち、「江戸期から帝国日本時代、土佐藩と台湾嘉義県を繋いでみえる保安林制度の公益性の特質」（研究代表・赤池、19K20547）、「森林鉄道のインフォーマルな生活利用の民衆史：高知・青森・秋田の女性の語りをもとに」（研究代表・岩佐、研究分担者・赤池他 1 名、21K12405）。これらには本課題の研究によって得られた成果が、さらに拡大される形で活用されることとなろう。
　〔吉尾〕　聴取調査の活動等を契機に安田町教育委員会との交流が深まる中、2020 年 11 月新町史編纂の編纂委員長を勤めることが正式に決まった（2024 年度刊行予定）。本研究期間内において、この作業も一つの方法として捉え、旧魚梁瀬森林鉄道の開設、展開、営業が安田町の住民の生活にもたらした影響についてその解明の手がかりを得ようと考えている。
　〔小幡〕　中山村旧役場文書の分析で得た知見を更に深め、高知県全体の「戦争と地域」の研究を進める予定である。そして、それは昨年度より編纂作業が開始された『高知県史』編纂に活かされることになるだろう。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 赤池慎吾・岩佐光広	４．巻 No.131
２．論文標題 ライフストーリーから描く森林鉄道：魚梁瀬森林鉄道のインタビュー調査から	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本森林学会大会発表データベース	６．最初と最後の頁 112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小幡尚	４．巻 57
２．論文標題 高知県中山村の日露戦争戦没者　―兵士の動向と地域の対応―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 海南史学	６．最初と最後の頁 75-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小幡尚	４．巻 7
２．論文標題 高知県中山村と日露戦争　―地域の対応を帰還した兵士の動向―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 高知人文社会科学研究	６．最初と最後の頁 52-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小幡尚	４．巻 18
２．論文標題 高知の戦争史料	５．発行年 2019年
３．雑誌名 資料学の方法を探る	６．最初と最後の頁 19-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 赤池慎吾	4．巻 29
2．論文標題 近世から近代への「公益性」の継承と展開過程：四国の保安林を事例に	5．発行年 2018年
3．雑誌名 平成29年度四国森林・林業研究発表集	6．最初と最後の頁 81-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 赤池慎吾・岩佐光広
2．発表標題 「鋸からチェンソーへ」再考――ある杣のライフヒストリーをもとに――
3．学会等名 林業経済学会2020年秋季大会（オンライン開催）
4．発表年 2020年

1．発表者名 赤池慎吾・岩佐光広
2．発表標題 ライフストーリーから描く森林鉄道：魚梁瀬森林鉄道のインタビュー調査から
3．学会等名 日本森林学会大会発表データベース
4．発表年 2020年

1．発表者名 赤池慎吾・岩佐光広
2．発表標題 魚梁瀬森林鉄道敷設による山村の近代化の一側面 －;女性の労働に注目して－
3．学会等名 林業経済学会2018年秋季大会、筑波大学
4．発表年 2018年

１．発表者名 赤池慎吾・岩佐光広
２．発表標題 「禁伐林台帳」から読み解く明治初期の禁伐林と山村の暮らし」
３．学会等名 『日本森林学会大会発表データベース』、No.130、191頁
４．発表年 2019年

１．発表者名 赤池慎吾
２．発表標題 高知県における魚つき林の史的展開過程
３．学会等名 『日本森林学会大会発表データベース』、No.129、9頁
４．発表年 2018年

１．発表者名 奥山洋一郎・赤池慎吾・柴崎茂光・八巻一成
２．発表標題 森林鉄道遺構の保存と活用
３．学会等名 『日本森林学会大会発表データベース』、No.129、840頁
４．発表年 2018年

１．発表者名 小幡尚
２．発表標題 高知の戦争史料
３．学会等名 愛媛大学「資料学」研究会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計2件

1．著者名 赤池慎吾	4．発行年 2021年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 694
3．書名 森林学の百科事典　（一社）日本森林学会　「近代的土地所有権の成立と国有林野」	

1．著者名 赤池慎吾・大崎優・岡村健二・梶英樹	4．発行年 2019年
2．出版社 晃洋書房	5．総ページ数 208
3．書名 地域コーディネーションの実践 ： 高知大学流地方創生への挑戦	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	岩佐　光広 (IWASA Mistuhiro) (20549670)	高知大学・教育研究部人文社会科学系人文社会科学部門・准教授 (16401)	
研究分担者	吉尾　寛 (YOSHIO Hiroshi) (40158390)	高知大学・その他部局等(名誉教授)・名誉教授 (16401)	
研究分担者	赤池　慎吾 (AKAIKE Shingo) (50570199)	高知大学・教育研究部自然科学系農学部門・准教授 (16401)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関